

森の夜道を男が1人歩いていると怪しい声がする。「げた貸そか、傘貸そか」。テレビでかつて放送されていた「まんが日本昔ばなし」に、そんな回があった▼「竹やぶから化けもの」と題された話は、敦賀市内に残る民話に材を得たらしい。オチを明かす

のは気が引けるが題名の化け物とはほかでもない、カワウソだ▼真っ暗な道中、雨に降られて難儀する男を見かねたとの美談である。人を化かすキツネやタヌキとは違い、彼らは優しい。そんな温かい地元民のまなざしを感じる▼長崎県・対馬で琉球大のチームがカワウソを撮影したという。これがニホンカワウソと特定されれば奇跡のようなニュース

越山若水

2017.8.18

である。彼らは38年前に絶滅したと考えられている▼昔は全国各地にもいた。先の民話が残る敦賀市内には「瀬河内」、福井市にも「瀬ヶ口」という地名がある。この「瀬」がカワウソで、身近な存在だったことをうかがわせる▼「瀬祭」という言葉もある。

近ごろは山口県の地酒の銘柄として知られるが、もともとは中国の書物「礼記」の「瀬魚を祭る」から来た言葉だ▼カワウソは捕らえた魚を岸に並べる習性を持つという。それはまるで、物を供えて祭りをするようだと見立てた。いまは並べるほど魚もない。そもそも「絶滅」させたのは誰か。島の片隅で彼らは無言で抗議しているのだろうか。